

## ハゼ科 アゴハゼ

*Chaenogobius annularis*



2004年3月19日灘で採集されたアゴハゼ。

ドロメと同じく小型の種で、標準体長8 cmほどになります。上の写真では分かりにくいのですが、アゴハゼの胸鰭の付け根には黒い斑紋があります。ドロメにはこれがありません。鰓ぶたの上端から尾鰭の付け根までの鱗の枚数は、アゴハゼが61～67枚、ドロメが77～87枚です。坪井さんによれば、アゴハゼは紀伊水道に面する室戸市の椎名と尾崎，土佐湾沿岸の奈半利町，赤岡町，佐賀町，土佐清水市の各磯の潮だまりで主に確認されています。灘でドロメとアゴハゼが共生しているのは珍しいケースと言えます。これは，灘にある山から染み出す程度の細流と潮流に関係がありそうです。

潮だまりは過酷な環境です。アゴハゼとドロメがここで生活できるのは，ヨコエビ類，魚類，貝類，ゴカイ類に加え，陸生昆虫をも餌とする幅広い食性にその秘密がありそうです。

2005年2月23日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，  
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせは FAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします。